

会場：児島マリンプール

【2024/12/26】

この試合のプレー集計

千葉県選抜	29	SH数	25	富山県選抜
	3	速攻数	3	
	15	ST・SB	11	
	21	SH・P誘発アシスト	13	
	6%	GK阻止率	30%	
	7	EX反則数	9	
	ST・SB: ボール奪取・SH阻止			

女子準決勝2

千葉県選抜

4	—	5
6	—	3
3	—	5
3	—	4

17 富山県選抜

PSO

西原 明日美

審判:

蛭名 広貴

【試合の流れ】

決勝進出をかけたこの一戦。強敵神奈川選抜を下した千葉県選抜がやや優勢にみられるが、富山県選抜としては昨年準優勝の意地を見せ、千葉県選抜のテンポの速い攻撃に対応できるかがカギとなってくる。千葉県選抜としては③傍嶋を中心とした圧倒的攻撃力がよさだ、対する富山は②山下③山下のセンター攻撃を得意としている。チームの特色を活かし切った方に勝利の女神が輝くであろう。

1P

千葉の③傍嶋がセンターボールを奪い、②宇津江のセンターシュートで富山はいきなり先制を許してしまう。しかし富山も黙っていない。すぐに取り返し試合をイーブンの状態へ。予想通り点の取り合いが続いた。千葉側は相手のパスミスからチャンスを得る。富山側は、②山下が積極的に仕掛け、退水誘発からチャンスを得る。両チームとも得意の攻撃を仕掛けたが、千葉側の攻撃ミスが目立った。富山側は、パスミスがあったものの千葉側の特異なカウンター攻撃を阻止するようなディフェンスを展開して最小限の失点にとどめ、このピリオド終了(千葉4-5富山)。

2P

一点ビハインドの状況から始まった千葉だが攻めの姿勢は変わらない。激しいドライブ攻撃から退水を誘発。その数的有利のチャンスを実際に決めて得点を重ねる。一方の富山側は、千葉側の中盤プレスディフェンスに苦戦し、シュートまでたどり着くことが難しい状況となっている。その中でも、中盤まではとみに点を取り合い、拮抗した試合を繰り返す。しかし、ピリオド終盤、千葉②宇津江が退水誘発し、自ら得点。このあたりから千葉ペースに。そのまま3連続得点し千葉ペースはピリオド終了まで続いた。このピリオド、千葉のシュート数が10本(富山は5本)と攻撃面で富山を圧倒した。富山側としては、②山下へのマークが厳しくなり、ミスが続いてしまった。次のピリオドでは、富山側はミスの数をなるべく減らし千葉のペースを崩すことが重要になってくる。

3P

2点リードしている千葉側だが、センターボールから②宇津江のセンターシュートでいきなり得点を重ねる。2ピリオド目の千葉ペースのまま始まったと思われた3ピリオド目だが、富山がすぐに連続得点し千葉の流れを断ち切る。千葉側の強力なセンター攻撃を、GKとDFで挟む形にすることにより、カットできる場面が増えた。千葉は対策をしてシュートまではいけるようになったものの、シュートが枠外。さらに富山GK①森の好セーブによって得点が難しくなる。千葉側のディフェンスを掻い潜り、富山側は外周からシュートを放つ。ピリオド中盤、③山下が右サイドから角度の難しいシュートを決め流れが変わる。そのまま立て続けに3連続得点し、1点リードを奪う。このまま富山ペースで進むのかと思われたが、千葉側が退水誘発。そのチャンスを③傍嶋が見事に決め、同点でピリオド終了(千葉13-13富山)。

4P

同点で迎えたこのピリオド、どちらが均衡を破るか注目が集まる中センターボールを取ったのは千葉だった。しかし富山の堅いディフェンスにより守られてしまう。これまで千葉側のディフェンスに苦戦をしていた富山側だが、②山下が退水を誘発し、すかさずタイムアウトを取る。見事チャンスをものにし、均衡を破る。追加で1点得点し富山の流れになるかと思われたがここで千葉②宇津江の退水誘発により、ここまで躍動していた富山②山下がゲームエクスクルーションとなってしまふ。エース②山下が不在となった富山側だが、得点を重ねてピリオド中盤はシーソーゲームとなった。試合終盤、千葉③傍嶋が難しい態勢からシュートを決め1点差まで追い上げる。1点差の攻防の中、残り32秒で富山がタイムアウトを選択。監督が焦っていた選手の気持ちを落ち着かせ再開するも、残り10秒千葉側に攻撃権を奪われてしまふ。このまま同点に追いつくかと思われたが、富山側が1点を守り切り、試合終了。千葉16-17富山でこの接戦を勝ち切り、富山が2年連続の決勝進出を決めた。